



ピースデポ

平和資料協同組合

会報

No.2

1998.5.15

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人:服部学/住所:〒223-0051 横浜市港北区箕輪町3-3-1 日吉グリーネ102
TEL:045-563-5101/FAX:045-563-9907/E-mail:peacedepot@y.email.ne.jp
郵便振替:00280-0-38075 平和資料協同組合/銀行口座:横浜銀行日吉支店 普通 1216616 平和資料協同組合

平和NGO活動者養成プロジェクト始まる

若手スタッフをジュネーブ会議に派遣

多額のカンパ、ありがとうございました

おかげさまで、ピースデポの初年度事業が順調にスタートしました。新規事業としては、とりわけ、平和NGOの活動者・研究者養成プロジェクトが具体的に始まりました。それは、会員ほかのみなさまからのカンパに支えられて、世界的核軍縮ネットワーク「核兵器廃絶2000(アボリション2000)」のジュネーブ会議に若手スタッフを派遣したことです。

日本とちがうところ、同じところ ジュネーブNGO会議に参加して

川崎哲

5月1日から6日まで、ジュネーブで開かれた核軍縮NGOの会議に参加しました。(皆さまからのカンパのおかげで参加することができました。ありがとうございました。カンパの会計報告は次頁をご覧ください。)

これは、NPT(核不拡散条約)再検討会議準備会(政府間会議)に合わせて、世界的な核軍縮ネットワーク「アボリション2000」などが中心になって、プログラムを組んだものです。政府間やNGOの議論の内容は、「核兵器・核実験モニター」誌にゆずり、ここでは各国の活動家たちとの出会いで受けた印象を記します。

◆ところ変われば—

まずは、女性の多さと強さ。「アボリション2000」の年會に集まった約70名くらいのうち、4割は女性だったと思います。しかも、議論をリードする役割(司会はその日ごとの交代制)を女性が果たすことが、男性よりも多かったと感じました。とりわけ、米国のNGOははっきりと女性主導でした。

初日の全員による自己紹介で、バツと見わたすと中高年が多い気がしたので、「若い層に運動を広げよう」と僕は述べました。ところがその後いろいろな人と知り合いになるにつれ、実は自分と同年代(僕は29)の人がそれぞれのNGOで中核的な仕事をしていることがわかりました。91年の湾岸戦争のときに反戦デモをガンガンやって、それ以来平和運動にはまったという、僕とはほぼ同じ経歴をもつ女性が、ニューヨークとジュネーブの国連本部と密接な関係をもった女性の平和NGOの中心人物であったりもしました。

いっぽうの中高年齢層も、本職は学者、弁護士、医者だったりするのですが実にフランクでした。国際司法裁判所が出した



小グループに分かれて今年の戦略を討議する。
(5月2日、聖トリニティ教会、ジュネーブ)

核兵器の違法性に関する意見をどう活用していくかというセミナーで、国際法の観点から発言する人と「法律なんて政治の道具にすぎない」と言う人が一緒にテーブルで話し合っている風景はおもしろいものでした。

◆ところ変われど—

年會初日に全員の自己紹介を始めたのはいいのですが、話し出したら止まらない(司会者が制止しても)人がどこの世界にもいるもので、結局自己紹介だけで一日終わってしまいました。

2日目には「アボリション2000」の組織形態と今年目標が議題になっていましたが、組織論がえんえんと続いて、肝心の目標と戦略が話し合えませんでした(後日に先送り)。組織論というのは、ゆるやかなネットワークだけでは政治的インパクトをもった活動ができないが、かといってカッチリと組織体を形成すると、組織が硬直化しネットワークが広がらなくなるという、ジレンマから来ています。非常に疲れる議論です。

自己紹介が長びくのも、組織論で疲弊するのも、僕自身日本の市民運動でさんざん経験してきたことです。要は、トップ・ダウンでなくボトム・アップのやり方で運動を作っていくという理念を掲げると、結局こうになってしまうのです。今のところ解決

策は世界的に見てもないということを知ったのは、残念というよりはホッとしました。

◆宿題—

多くの人と出会い、宿題はたくさんもち帰ってきました。最大の宿題は、「核廃絶はなんとなく国是」という日本で、「なんとなく」でない、明確な世論と政策をつくり出していくことの必要性を痛感したことです。それを実現するためのヒントは、欧米や太平洋のNGOからいくつももらいました。

さて、ピースデポの事業の中で何ができるか、目下思案中です。

●ジュネーブ・カンパ会計報告(1998.5.15)

60人以上の方(団体含む)から50万円を越えるカンパをいただきました。ありがとうございます。差額は、次年度以降の派遣に備え、プールさせていただきます。

・収入 ¥502,830-
・支出 ¥302,762-

内訳:往復航空券-¥204,000、その他交通費-¥9,757、宿泊費-¥23,290、その他経費(会場費、空港税など)-¥9,245、カンパ要請印刷-4,630、発送-51,840

・収支差額 ¥200,068-

各事業の進展状況

(第3回理事会(4月4日)での確認などにもとづく。)

☺:順調に進行中、☹:進行中

(1)組織体制の整備

☺1.事務局体制を整備中です。

当面の体制は維持できていますが、よりよいスタッフ体制が作れないか理事会で話し合っています。

☺2. NPO法人格取得に向け準備を始めました。

NPO法の成立に伴い、同法にもとづく法人格を取得するために、担当理事(横山)とスタッフ(川崎)を決め、実務上の検討を始めました。

☺3. 会員が広がりはじめています。

各理事の働きかけなどで、会員数が拡大しています(現在約250名)。諸団体との連携や、各種メディアへの広

NGOが根づく社会

ロジャース弁護士の葬儀にふれて

梅林宏道(ピースデポ副代表)

親しくつき合っていたワシントンDCのリー・ロジャース弁護士が突然の自動車事故で、3月10日に亡くなった。在日米海軍基地の環境問題で、横須賀の「NEPAの会」がワシントンDCで国防省を相手どって裁判を起こすのにお世話になって以来、もう7年以上のつき合いになる。調査目的でワシントンDCに行くたびに会って情報交換をしたり、アドバイスを待たりしていた。事故で急逝する2週間前にも、アイリーン夫人と一緒にトルコ料理をご馳走になったばかりであった。

そのときには、沖縄の普天間基地の代替海上ヘリポート計画について、米軍はNEPA(アメリカの国家環境政策法)で義務づけられた環境評価書(EIS)を作成する必要があるという持論を強調していた。それは重要な示唆であり、彼を失ったことはまことに残念である。この主張についてはもう少し説明をしたいところであるが、ここでは注意を喚起するにとどめておきたい。

ところで、ここでの話題は海上ヘリポートの問題ではなくて、彼の葬儀をめぐって経験したことからである。

アイリーン夫人と彼の事務所(ロジャース & モア弁護士事務所)から、すぐに葬儀の案内がとどいた。急なことで私に出席する条件はなかった。彼を追悼し残された家族に哀悼の気持を伝えるのに、当然のことながら、このような場合のアメリカにおける慣習が気になった。

葬儀の案内に次のような一文が書かれていた。「リーを追悼するために献花に代えて行われる贈物は、次のところに宛てるよう遺族は要請しています」とあって、「レイチェル・カーソン評議会」の住所と電話番号が記されていたのである。レイチェル・カーソンといえば、環境問題について古典となる警告の書『沈黙の春』の有名な著者である。調べたところ「レイチェル・カーソン評議会」は、自然に対する畏敬の念を育て、とりわけ農業・殺虫剤の毒性について情報を提供する活動にとりくむ環境NGI(非政府組織)であった。

つまり、ロジャース弁護士の遺族は、彼への追悼の気持を、彼が熱心であった環境NGOに寄付することによって表してほしいと、知人や友人に要請したのである。

このメッセージは、強く私の関心を誘った。さっそく、この要請の真意とこのような方法がどの程度一般化しているのかについて、友人である米国の平和活動家に質問した。彼女の返事は次のようなものであった。

「米国では葬式に花を送る習慣があります。葬式に花を持って行って、遺体が埋葬されたときにお墓にそれを置きます。ときには花を直接家族に贈ることもあります。しかし、故人に敬意を表し故人がとりわけ心を寄せていた組織や問題に、遺族が人々の寄付を求める習慣が広がっています。ときには、家族は故人の死因となった

病気に関する医学研究に寄付を求めることもあります。もちろん、人々は故人への敬意の気持から何かをしたいと思うのであって、義務的なものではありません。故人との関係によるものです。」

ピースデポの活動でもっとも挑戦に値する課題は、平和問題のNGOの財政を支える社会的基盤を作ることである。一組織のみの力ではできないことではないが、私たちが失敗することはできない。日本の市民は、政党や労働組合への依存体質で平和運動をやってきた、あるいは、やってこなかった。平和問題に取り組むNGOを、個人の意思で支えるという草の根の意識がきわめて希薄である。いきおい意識のある少数の人たちに、多くの負担が集中する。若い人が普通感覚で平和運動に「しばらく」献身してみるチャンスも、同じような事情で社会は用意していない。

今回、ロジャース弁護士の葬儀で経験したことは、葬式というもっとも一般的な慣習的行事のなかにも、NGO活動を支援する仕組みが根を広げてゆく社会の基盤の強さである。葬式には、主義主張をこえて多くの人々が集まる。そういう場が、個人の主義主張を再考する場として活用され、NGOを支える機能の一端になる。

アメリカ社会を無批判に賛美する意図はないが、この経験には日本でも十分に学ぶべきことがらがある。

告なども検討しています。

④. 英語版会報を海外のNGOに配りました。

英語版第1号を4月1日に発行し、海外のNGOに送付するほか、ジュネーブでの一連の会議でも配布しました。当初年4回発行をめざしましたが、事務処理がまにあわないので、年3回発行にきりかえます。ご理解ください。

⑤. 各地からの資料請求に対応しています。

全国の会員、非会員(自治体含む)からの資料請求は頻繁にあり、対応していますが、提供の際の料金設定などはこれからの課題です。

⑥. ホームページを6月に開設します。

6月頃開設する方向で担当スタッフ(笠本)を中心に準備が進んでいます。

⇒「在庫資料目録作成」「地域ポストの整備」「受託事業の開発」はいずれも未着手です。会員の皆さんのアイデアとご協力をお願いします。

(2) 継続事業

①. 「核兵器・核実験モニター」が充実、合本も出ました。

助言者からの寄稿などで誌面が充実したほか、第1号から50号までの合本が完成(3月)し、販売がすすんでいます。

②. 「在日米軍の作戦行動」調査、年内に出版します。

2月には梅林がワシントンでの調査・資料収集を行い、その整理をスタッフ(田中)と進めています。年内の出版をめざしています。

③. 執筆、講演、TV出演、取材協力は連日のようにあります。

日米新ガイドラインや、インドの核実験などのホットなテーマについて、マスコミ各社からの取材が頻繁にあり、梅林を中心に協力しています。また、主要なものとして、国際フォーラム「力でなく対話を!—アジア太平洋安全

保障におけるNGOの役割」(97年11月)を材料にした出版の準備も進んでいます。

<主な講演や出演>

- 1月20日 NHKが首都圏ニュースでピースデポの活動を紹介。情報公開法による調査活動が中心。
- 2月11日 「沖縄タイムス」紙に、知事が正式に海上ヘリポート案を拒否したことについての梅林副代表の原稿掲載。
- 3月3日 川崎宮前区平和人権学級で憲法と安保をテーマに梅林副代表が講演。
- 3月14日 神奈川保険医協会で米軍基地汚染問題で梅林副代表が講演。
- 3月16日 服部代表が第5福竜丸の乗組員と対談。
- 3月28日 浦安市公民館主催の「平和を考える講座」で梅林副代表が沖縄をテーマに講演。
- 4月27日 都市科学政策研究所(株)、沖縄関係資料について取材。
- 5月12日 NHK・BSニュースにインド核実験で梅林副代表が出演。
- 5月13日 NHK「クローズアップ現代」でインド核実験を取り上げるための取材と録画。

(3) 新規事業

①. 「核軍縮と非核自治体/1998」が6月末に発行します。

前田哲男、梅林宏道の監修による、非核自治体への提案の冊子です。(A4、80頁程度、頒価1,500円(予定))

②. 平和NGO活動者・研究者養成プロジェクトが進んでいます。

ジュネーブ会議への若手スタッフの派遣については1~2頁をご覧ください。このほか、軍縮・安全保障の公開研究会(DS研)のサポートを始めました。(4頁参照)

③. ハーグ平和アピール(HAP99)に注目しましょう。

来年5月にハーグで開かれる世界的な平和会議への準備作業に国内および海外のNGOと連携して参加しています。日本国内で、このイベントへの関心を高めるとり組みを進めています。HAP99事務局のミランダ・シソングが1月13日に事務所を訪問しました。

④. パンフレット「21世紀の平和ビジョンを求めて」を発行します。

A4、4頁程度のものを作成する方向です。

◇スタッフ紹介◇

私たちが支えています!!



●笠本 丘生

(かきもと・たかお:フルタイムスタッフ)

苦手なこと:早寝早起き、計画的行動/得意なこと:夜更かし朝寝坊、行き当たりばったり/夢:世界の紛争地をめぐる旅/事務所での仕事:会計、名簿管理、パソコン操作支援他もろもろ(ピースデポ庶務部長を自認)。

●川崎 哲

(かわさき・あきら:パートタイムスタッフ)

親と体力に支えられた学生運動と、定職と家庭に支えられ/しぼられたオトナの運動との狭間にある世代です。この世代の運動は、不安定な雇用と生活の上に成り立っています。この現状を打破するため「30才交流会」を主催しています。関心のある方はご連絡を。



●田中 利昌

(たなか・としまさ:パートタイムスタッフ)

ピースデポに通うようになってはや2カ月。日々、目がどんどん悪くなる毎日です。コーヒーの飲みすぎで胃腸が欠かせません。この春まで大学生をやっていた関係で、寝坊の回数を某スタッフと競う私に幸あれ。



●青柳 絢子

(あおやぎ・あやこ:監事、ボランティアスタッフ)

PRするものは何もないが、強いて云えば年の割にいつも元気。発送作業(宛名ラベル貼り)が好きと公言している手前そのごく一部を担当しているが、現在私の母と娘が健康を害し、そのサポートでも忙しく、もってお手伝いできなくて残念だ。



●中田 真理子

(なかた・まじ:ボランティアスタッフ)

中島敦流に云えば、傲慢な羞恥心と、臆病な自尊心と共に齢耳順を過ぎ、今後はできるだけ好きなことだけしていきたいと思います。



孫悟空のように蠅にもなることができれば、気に入らない政治屋や、ノーパンシャブシャブの役人たちのごちそうに、六本の足ぜんぶに0-157菌をたっぷりつけて汚染してやりたい妄想にかられたりします。普段は三頭の犬の糞取りオバさんしています。

●飯田 治子(パートタイムスタッフ)さんは3月に退職しました。

☺5. 第2回総会は、12月5日(土)～6日(日)に行います。年会イベントについては、理事会で検討が始まっています。会場は未定です。

⇒来年度以降の可能性を調査・立案・模索するとして各事業は、今のところ未着手です。会員の皆さんのアイデアとご協力をお願いします。

編集後記

◆ジュネーブのユースホステルで同室になった米国の若いバックパッカーは、核軍縮のNGO会議に「俺も出たい」とか言っていたが、僕の猛烈ないびきで機嫌を損ねたらしく、翌朝以降その話の続きはできなかった。(川崎) ◆視力がどんどん悪くなる。パソコンのやり過ぎである。パソコン購入という自分で自分の首を絞めることをしてしまった。コンタクトを買い替える日は近いかもれない。(田中) ◆「びいず」、「くれい」、「べるぎいわつふる」。僕は全然知らない。「知らなくて恥ずかしいことはないけど……」。他のスタッフたちが口ごもる。「……」に込められたものを僕は忘れない。(笠本)

◇各地のとりのみとお知らせ◇

●第2回総会、12月5日(土)～6日(日)に開催

第2回総会の日程が、12月5日～6日の2日にわたって開催されることが決まりました。会場は未定です。会員のみならず、ぜひご参加ください。同時に開催される年会イベントについては、理事会で検討が始まっています。

Study 軍縮・安全保障の公開研究会 DS研究会にご参加ください

軍縮・安全保障の公開研究会「DS(Disarmament and Security)研究会」は、軍縮・安全保障に関する一次資料を読み、そのテーマについて分析や自由な議論をする研究会です。

DS研究会は、もともと、ピースデポ発足準備会メンバーを含む有志が過去2年間にわたり続けてきたとり組みです。この時期にとり上げられたテーマには、たとえば次のようなものがあります。

◇「NPT延長会議採決決議文」など

特に重要と思われる議長提案文書4種類のほかに、「軍縮タイムス」の記事なども合わせて、読みました。('95年6月)

◇「日米防衛協力のための指針見直しの中間報告」

日本語、英語双方の原文を読み比べ、微妙なニュアンスの違いも含めて話し合いました。('97年6月)

他にも、国際司法裁判所の勧告的意見、CTBT、米国の「東アジア戦略報告(ナイレポート)」、横須賀基地12号バースの汚染、対人地雷禁止条約など、その時々々のテーマを取り上げてきました。

ピースデポ発足に伴い、従来のDS研は運営体制を新しく確立し、第2期DS研究会という形で今回スタートしました。事務処理面でピースデポの支援を受けています。新生DS研の第1回は「米軍の環境管理基準」、第2回は「劣化ウラン」をテーマに議論しました。

公開研究会なので、多くのみなさまの参加をお願いします。各回のテーマは、参加者の幅広い関心から選んでいこうと思います。お知らせは、「核兵器・核実験モニター」ほか、各種メディアに掲載します。(DS研幹事・佐藤毅彦)

原則として毎月第2日曜、午後2時～5時、ピースデポ事務所にて
参加費：一般1,000円(資料代込み)

問い合わせ：ピースデポ・笠本

Work 反核カレンダー1998「八月の空の下で」

国際司法裁判所の核兵器の違法性に関する意見(1996年)と、広島原爆の悲惨さを訴える詩をテーマに、美しい英文の装飾文字で書かれた1998年版のカレンダーができました。フラワーデザイナーの木村有子さんの製作です。

問い合わせ：木村有子さん／TEL/FAX:0742-71-1827

Action 21世紀初頭を「非暴力の10年」に

ノーベル平和賞受賞者たちの提言支持する署名活動

ドライ・ラマ、マザー・テレサ、アウンサン・スーチー、ネルソン・マンデラ、ミハイル・ゴルバチョフ、デズモンド・ツツ各氏をはじめとした、ノーベル平和賞受賞者20名が「世界の子どものための訴え」として、2000年から2010年までを「非暴力文化の10年」と宣言するように提言をしました。この提言を支持するユネスコ本部宛の署

名活動が、日本でも始まりました。

呼びかけ・問い合わせ：「ピースメーカー」工藤幸枝さん
TEL/FAX:03-3757-7876

Forum 第2回「韓日青年学生フォーラム」

過去を見つめ、未来を切り開こう

韓国の金大中政権誕生と南北平和共存、多国間安保に向けた流れなど、朝鮮半島とその周辺情勢は、大きく変化しようとしています。そのような状況を踏まえ、「東北アジアの平和実現」「過去の克服」「国境を越える連帯」を基本方向にして、韓国・在日・日本の青年学生が韓国の歴史現場を訪問し、ともに討論し、共同の立場を模索します。「ナムスの家」や板門店などへのスタディツアーと公開フォーラム、希望者には韓国の一般家庭へのホームステイが予定されています。(ピースデポから、笠本丘生が日本側代表発題者として参加)

日時・開催地：6月24日～28日、ソウルなど

問い合わせ先：

在日韓国青年連合 (TEL:06-977-1162 FAX:06-977-1163)
金弘樹(キム・ホンソク)さん (E-Mail:ko-youth@mxt.meshnet.or.jp)

在日韓国学生同盟 (東京TEL/FAX:03-3988-0452)
神戸TEL/FAX:078-854-2385)

●ボランティア募集中!

ピースデポは、事業の一部に参加して下さるボランティア・スタッフを募集しています。下記のような仕事があります。

(1)事務所に来ていただく仕事：

国内外からの資料の整理、月2回の発送作業など。また、「各政党の平和政策のデータベースづくり」など、未着手のプロジェクトの企画・実行など。

(2)在宅で可能な仕事：

翻訳(英文和訳が主ですが、米国市民向けに在日米軍の現状を伝えるプロジェクトなどを進めるためには、和文英訳の協力も必要です)、準備中のホームページ開設・維持への協力など。

●「核兵器・核実験モニター」合本の販売と 会員の拡大にご協力ください

第1号～50号までの合本は、世界的な核軍縮の議論に役立つ、資料性の高いものです(会員価格3,000円、一般4,000円)。まだ購入されていない方は、この機会にぜひご購入ください。まわりの方にも、お勧めください。合本の購入を機に会員になることも可能です。

非会員で「核兵器・核実験モニター」の購読者の皆さまには、ぜひ会員になって下さるようお願いいたします。会員になると、ピースデポの情報の利用にあたって優遇されます。ピースデポの情報・調査活動は、文字通り「市民の手によって」支えられていることをご理解ください。

「各地でのとりみとお知らせ」欄について

今後、会報では会員・非会員の皆さまが各地でとりまれている活動や、イベントのインフォメーションをこの欄に掲載していきます。掲載希望の方は事務局までお寄せください。(誌面の都合上、すべてを掲載できない場合があります。ご理解ください。次号(第3号)は9月15日発行(8月末日切)、次々号(第4号)は99年1月15日発行予定です。)